

# 1 自己評価及び第三者評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2874400308		
法人名	社会福祉法人 尚徳会		
事業所名	グループホームとよおかの里		
所在地	豊岡市香住1272番地		
自己評価作成日	平成31年1月5日	評価結果市町村受理日	平成31年2月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/28/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigvoSvoCd=2874400308-00&amp;PrefCd=28&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/28/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigvoSvoCd=2874400308-00&amp;PrefCd=28&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 はりま総合福祉評価センター		
所在地	姫路市安田四丁目1番地 姫路市役所北別館3階		
訪問調査日	平成31年1月24日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近隣には小学校や幼稚園があり、自然豊かな環境にも恵まれた場所にある。窓からは四季折々の景色が楽しめ、空を見れば虹がかかりコウノトリが飛ぶ姿も見られている。季節ごとの行事や外出も心掛け、理念である「笑顔で楽しく」をモットーに利用者に寄り添いながら支援している。家族会や行事を開催して家人面会の機会や交流をふやし、報告・連絡・相談を行いながら家族との信頼関係の構築に努めている。施設夏祭りにはグループホーム家族会が協力して「バザー」を出店し、売り上げ金を寄付することが出来た。また、こまめにアルバムを整理して、面会時にアルバムを見ながら報告を行っている。特養やデイサービスも併設している為、行事に参加したり必要時には機械浴も使用している。機能低下しても特養への入所も検討しやすく家人は安心されている。施設合同での研修・委員会・行事もあり、利用者にとっては交流の場が増え、職員にとっては視野が広がる機会となっている。

## 【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所独自の理念『笑顔で楽しく』を掲げるとともに年度ごとの具体的な目標を設定し、管理者をはじめ職員は利用者の望む暮らしの実現に向けて日々取り組まれている。家族会が2ヶ月に1回開催される運営推進会議ごとに設けられ、バーベキューや夏祭りのバザーの協力、ガーデニングなどの催しを通して、家族との交流が盛んにおこなわれている。昨年度目標に掲げた、事業所独自の法令遵守、サービス支援マニュアルの整備や研修計画についても、管理者のみならず全職員が関わり質の向上に向けた取り組みが行なわれている。開設から15周年を迎え、地域の高齢者支援に欠かせない事業所として、培った知識や技術、実績が今後の人材育成に繋がっていくことが大いに期待される事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおお むね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 評価	第三者 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念もあるが、グループホーム独自の理念「笑顔で楽しく」を掲げ明文化した方針とともに玄関に掲示している。会議では理念の見直しについても話し合っている。職員には、日頃から拠り所として捉えるよう指導している。	法人の理念とは別に、事業所独自の理念を制定している。「笑顔で楽しく」という理念を基に、年間の目標を立てて取り組んでいる。笑ってなければどうすれば良いか、楽しくなければどうすれば良いかを考え理念に立ち戻り実践している。理念は玄関に掲示し、内外に周知を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	近隣の小学生や幼稚園児との交流がある。チラシ等の情報で地域のイベントにも参加している。今年度はグループホームとして家族会・運営委員会が協力して夏祭りでバザーを開催し、地域の方に喜んで頂けた。	地域の方との交流の機会が多い。幼稚園からは年3回の訪問を受け、利用者と工作などを楽しんでいる。併設施設と合同での夏祭りには、今年初めて事業所としてバザーを出店し、利用者も店員として参加した。地域の文化祭に出掛けたり、地域ボランティアも多数受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の見学には気軽に応じ、いつでもグループホーム内を開放している。今年度は地域コミュニティセンターでの福祉研修会に参加して、グループホームの事を紹介させて頂いた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回運営推進会議を開催し、利用者状況や事故報告を行っている。前回の外部評価の助言もあり、今年度より地域の民生委員にも参加してもらっている。また、身体拘束等の適正化を図る為の対策を検討する委員会を3月に一回行うが、運営推進委員会を活用する事ができる事も説明した。	2カ月に1回開催している。利用者・家族、地域包括支援センター職員や地域の方の他、小学校校長などが参加している。今年度からは民生委員も加わった。利用者・家族が多数参加している。事業所の内情を知ってもらうため、利用者の身体状況や事故の報告も詳細に行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の地域密着型サービス連絡協議会に出席し、担当者と話合う機会があり、研修会等も協同している。今年度は困難事例は無く、事故報告について相談を行った。	地域包括支援センター職員に運営推進会議に参加してもらっている。市の職員も参加する、地域密着型サービス連絡協議会には、管理者が理事として関わっている。地域包括支援センターから、認知症対応の模擬訓練の依頼を受け、出向いて協力した事例がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の研修会にも参加しているが、今年度はグループホーム独自の身体拘束についてのマニュアルを作成して研修会を行った。帰宅願望のある利用者は職員が付き添って散歩している。	身体拘束は行っていない。身体拘束に関する、法人全体の研修に参加すると共に、事業所独自の研修を行っている。今年度は、職員に研修の担当を割り振り取り組んだ。担当職員主導でマニュアルを見直し、新たなマニュアルを基に研修を実施するなど、成果を上げている。	

自己 評価	第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の研修会にも参加しているが、今年度はグループホーム独自の虐待防止についてのマニュアルを作成して研修会を行った。ストレスから虐待にもつながりかねない為、職員のストレスチェックを行い面談による聞き取りも行っている。	事業所独自の虐待防止についてのマニュアルを作成している。担当職員が作成を担い、マニュアルに沿った研修を実施した。職員のストレスには年1回(夜勤者は年2回)のストレスチェックを行い、管理者やリーダーによる面接を実施して対処している。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は権利擁護と成年後見制度のマニュアルを作成し研修会を行った。	権利擁護と成年後見制度のマニュアルがある。今年度新たに作成し、研修を行った。現在2名、後見制度を利用している。1名は管理者が橋渡し役を務めて利用につながった。運営推進会議時に、司法書士である家族を講師にして研修を実施した事例がある。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	待機者の面接は管理者とリーダーで自宅に訪問したり、施設に直接来ていただいて状態把握と説明を行っている。契約・解約・改定時には、利用者や家族の不安を除去できるよう、丁寧に説明するように努めている。今年度、入院でレベル低下された利用者の家族からグループホームに戻れるのか心配と相談されたが説明で安心されている。	契約の締結までに、グループホームの生活に合うかどうかの判定も含め、ていねいな説明に努めている。契約前にはリーダーと自宅を訪問し、本人の部屋を見せてもらい、これまでの生活の把握をしている。同法人の特別養護老人ホームやデイサービスの説明もし、入居待ち時にショートステイを利用してもらうなど、スムーズな利用ができるよう配慮している。	現在は管理者が主導して行っていることを、リーダークラスの職員等が継続して行える手立てを考えてもらいたい。契約に至るまでの手順をマニュアル化されてはどうか。
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には積極的に利用者の状態報告を行い、管理者不在でも介護職員が説明できるように指導している。家族からの意見や要望が聞かれた時は会議で話し合っている。	運営推進会議には、多数の家族が参加している。運営推進会議後、家族会を開催している。職員と利用者・家族と共に食事をする機会を設け、信頼関係も築けており、意見・要望を表出しやすい。昨年は家族から夏祭りのバザー開催の提案があり、協力して実現した。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の自己評価表を基に面談を行っている。ユニット会議でも意見や提案を聞く機会がある。やりたいことがあればチャレンジする様に指導している。	月1回ユニット会議を行っている。年2回の面談の場でも、職員の意見・提案を聞いている。1つの問題点をみんなの事として捉え、職員一人ひとりに問題に対しどう思うか、どうすれば良いかを問うようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、職員が日々笑顔で楽しく仕事が出来ているか気にかけて、気になる時は面談を行い話し合いの場を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人の時はエルダー制度を設け、一年かけて成長を見守っている。地域密着業者での研修会や長寿の郷派遣研修、施設内外の研修にも参加できる機会を設けている。		

自己 番号	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の地域密着型サービス連絡協議会で同業者と交流する機会がある。役員として勉強会の活動も行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ず事前面接を行い、不安や要望を伺うようにしている。入所後も関わりを密にし、安心して暮らせるための関係作りに努めている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接時に家人の意向を伺っている。入所後も安心してできるよう状態報告に努めている。行事や家族会の参加を呼びかけ信頼関係の構築に努めている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申込みの面談時からグループホーム入所が適切なのか、併設の特養が適切なのか情報収集に努め判断している。事前面接時にもケアマネージャーから情報収集を行い、見極めに努めている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者の思いに寄り添い、共有できるように支援している。		
19	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事や家族会参加を呼びかけ、面会し易い環境作りに努めている。面会時には家族がゆっくり過ごせるように配慮し、家族からの情報収集や状態報告を行い、利用者の現状を共有している。		
20 (11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族から依頼があれば自宅に送迎をしたり、自宅周辺をドライブする事もある。併設の特養やデイサービスの知人に会いに行く時は付き添い、知人がグループホームに遊びに来てくれることもある。利用者が、以前勤務していた職場の同僚が大勢で来てくれた時は良い表情が見られ家族も大喜びされていた。	併設の特別養護老人ホームやデイサービスを利用している友人を訪ねたり、外出時に自宅近辺をドライブしたりしている。絶縁関係にあった親戚と家族の間を取り持ち、面会に繋がった事例がある。	

自己 評価	第三 者	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しそうな利用者に対しては、職員が間に入りコミュニケーションを図っている。また、他者が気にかけてくれ、傍に来るように声をかける姿も見られている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	殆どが死亡か特養入所での退所となっている。退所された家族から野菜やお菓子を頂く事もある。特養入所になっても交流は継続している。他施設に移った方もおられるが、地域密着会議で出会う職員に近況を尋ねている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	管理者や計画作成担当者、担当職員が中心となり本人の思いに寄り添えるよう聞き取りを行い、ケース記録や連絡帳で周知している。困難な場合はユニット会議で相談し、本人本位のケアが叶うように検討している。	「GH利用者概況表」に沿ってアセスメントを行っている。生活歴は時系列にスケール上に記録し、分かりやすい。以前、琴の先生をしていた利用者、家族会で演奏会の場を設けるなど、利用者・家族の意向を推し量り支援した事例がある。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家人から出来るだけ詳しく生活歴や暮らし方を収集し、共有している。入所以降も新情報の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	午前の様子、午後の様子、夜間の様子、受診、面会、外出等とパソコン入力の場合記録や連絡帳で現状の把握を行っている。	
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時や行事開催時にうかがった家人からの意向はケース記録に残している。特に状態悪化時には終末期の意向に変わりはないか確認している。月一回のモニタリングを行い、半年ごとの介護計画書の見直しに活用している。介護計画書作成時にはカンファレンスを開催している。	昨年の第三者評価受審後、目標達成計画を立てて取り組んだ。介護計画は、概ね6か月に1回見直しを行っている。まずアセスメントを取り直し、時には看護師・栄養士・相談員などの意見を聞きながらケアカンファレンスを行っている。担当職員が月1回モニタリングをして、6か月に1回評価し新たな計画を立てている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケア記録や連絡帳で状態把握し、職員間で共有しながらモニタリングに反映し、介護計画の見直しに活かしている。	

自己 番号	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域行事参加の支援や受診対応、その他にも本人家人の希望や職員の意見を聞きながら、柔軟な支援をしたいと考えている。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方が庭に花を植えてくれ開花時には楽しんでいる。また、歌や踊りの訪問もあり楽しめている。地域で開催するイベントに参加したり、小学校や幼稚園の訪問もある。		
30 (14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に受診の意向を伺い、本人家人の希望に沿うようにしている。殆どの利用者は、近隣のかかりつけ医に定期受診の支援を行い、家人には受診結果の報告を行っている。かかりつけ医との関係も良好で、急変時には往診を受けたり、専門医への紹介もしていただいている。	利用者・家族の希望によるかかりつけ医に受診することができる。現在、内科は全ての利用者が協力医をかかりつけ医にしている。精神科や歯科・眼科の受診は家族の介助で通院している。家族を通して通院の状況を把握している。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	兼務であるが、日中は常時看護師がおり、困った事は相談できており指示も得ている。夜間もオンコール体制をとっている。		
32 (15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者の情報を提供している。入院中には面会に行き、家族との連携も図っている。退院前のカンファレンスがあれば参加し、退院後のケアにつなげている。	入院時は利用者の情報を提供し、日頃の様子を伝えている。入院中は積極的に見舞いに行き、状況把握に努めている。退院時はカンファレンスに参加し、なければ開催を依頼して、担当職員と共に退院後の生活について検討している。	
33 (16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に、施設で出来る事出来ない事を本人家人に説明し、重度化した時の意向を書面で伺っている。その後も身体レベルの変化に合わせて、その都度意向に変化は無いかわかるように努めている。看取りマニュアルを作成し、実際に看取りの支援も行っている。	「重度化した場合における対応に関する指針」を制定している。看取りケアマニュアルを作成し、29年に見直しを行っている。年に約1例の看取りがある。契約時に「本人にとって最善と考える終末期のあり方について」という様式に沿って、延命処置の希望の有無などを聞き、同意書を取っている。	終末期対応の意向の同意書は、契約時のものである。利用者・家族の思いは常に揺れ動くことを踏まえ、定期的な(または状況の変化時に)同意の確認をしてほしい。今後のために、看取りの介護計画作成のマニュアルも作られてはどうか。
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルがあり、目につく所に置いている。事故発生時には報告書を作成し、職員間での共有を図り事故予防につなげている。		

自己 番号	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35 (17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いのもと、法人合同で年に2回、日中と夜間想定での避難訓練や消火器の使い方の訓練を実施し、グループホーム単独での避難訓練も実施している。今年度も8月に市の防災課による「風水害を想定した避難訓練」に参加し、1階から2階に利用者を避難する訓練を行った。災害時には、施設に地域の方の受け入れを依頼されている。	併設施設と合同で、年2回(1回は夜間想定)火災の避難訓練を実施している。事業所独自では地震に対する避難訓練を行っている。昨年8月には市民総参加訓練(風水害想定)にも参加した。夜間を想定し、併設施設の夜勤者の救助も受け、垂直避難をする訓練を実施した。事業所独自で備蓄をしている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36 (18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症があっても常に敬う気持ちで接するように指導している。今年度は独自の接遇マニュアルを作成し研修会を行った。	今年度、接遇のマニュアルを作成している。担当の職員が中心となり、マニュアルに基づいた研修も実施した。職員は穏やかな言葉かけを心掛け、さりげない支援をしている。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の何気ない会話の中から、本人の思いが引き出せるように努めている。入浴時や外出時は利用者と密に関われる為、良い機会ととらえている。買い物時にも本人の希望に沿いながら、好きな物を選んでもらっている。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆったりとその人のペースで過ごせるように支援している。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みを聞きながら、その人らしい身だしなみが出来るように支援している。		
40 (19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の野菜等を頂く事もあり、利用者と一緒にメニューを考え変更することもある。食事の準備や後片付けも出来る事は利用者をお願いしている。	併設する特別養護老人ホームの管理栄養士が栄養価に配慮した1週間分のメニュー表を基に、事業所から毎日地域の商店へ買い出しに出かけ、調理、盛り付け、後片付けに至る一連の過程を職員と利用者が協働し、利用者の持てる力を活かしながら、食事に対する支援が行われている。また、家族会では、バーベキューやおはぎ、鍋、板前による握り寿司など、年間を通した計画に基づいて企画されている。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは一週間ごとに管理栄養士が作成している。水分摂取量についてはチェック表で把握し、水分摂取の確保に努めている。		

自己 番号	第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを実施している。月に一回、訪問歯科の往診があり、困った事があれば診て頂いている。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、オムツに頼らずトイレ誘導を行っている。夜間もポータブルトイレを設置し、オムツ使用にならないように努めている。	各利用者の居室の中心的な場所にトイレがある。トイレは3つの便器の種類を設け、車椅子でも利用が出来るような環境となっている。車椅子利用中の方は3名おられるが、日中はオムツの利用者はおらずトイレ介助を行っている。夜間もポータブルトイレを使用するなど、安易なオムツを使用する事が無いよう、利用者の排泄パターンの把握や支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表に基づき、個々の排泄状態の把握に努めている。水分をこまめに勧めたり、食事、運動で便秘予防に努めている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴支援以外にも希望に応じて支援を行っている。併設のデイサービスで寝台浴や座浴を使用する事もある。体調不良時には清拭・足浴も行い清潔保持に努めている。入浴拒否があれば時間や日に変える事もある。	週に2回を入浴の基本としているが、利用者からの希望や必要に応じて清潔を保持するための入浴支援が行われている。その他、体調に合わせた清拭や足浴といった支援以外に利用者の重度化にも対応すべく、併設の特別養護老人ホームなどの特殊浴槽を使用する場合もある。入浴拒否される方についても、職員や時間、日にちを変更するなど利用者に合わせて支援が行われている。	身体の清潔を保持するための場所としてだけでなく、癒し、爽快感など入浴の意義も踏まえた環境整備に取り組まれていることが期待されます。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方に合わせて休息がとれるようにしたり、使い慣れた毛布を持参して頂き、室温調整にも配慮して安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬の説明書をファイルし、いつでも目につく所に置いている。薬の内容の変化や状態の変化があれば申し送りノートや朝礼簿に記入し、職員間で共有できている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	事前にうかがった生活歴やその後知り得た情報を活用し、その方に合った楽しみ事の支援が出来るように努めている。好き嫌いがあっても外食なら食べたり、家人と一緒に食べたり出来る事から、気分転換も大切ととらえている。		



自己 番号	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	担当職員が利用者の希望を伺い、希望に沿った外出の支援を行っている。行事担当職員は、季節に合わせた外出の計画を立て実行している。天気の良い日には施設周辺を散歩している。	年間事業計画の中に、利用者の個別外出が盛り込まれ、主に春や秋といった過ごしやすい気候の際に、外出支援が行われている。 お菓子やケーキなどの買い物やお墓参りなどの支援を行うほか、家族の要望を受け、送迎が困難な場合も利用者や家族の利益を優先し、親族の結婚式などにも送り届けた事例をうかがうことができた。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には施設管理であるが、外出時やおやつ販売時には本人がつかえるように支援している。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時や不穏時には自由に電話で話せるように支援している。また、年賀状・暑中見舞いを送れるように支援している。		
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日々の思い出の写真を壁に貼る事で利用者や家族から喜ばれている。窓も広く季節を感じやすい。季節の草花や果物を飾り、居心地良く過ごせるように努めている。共用スペースが広く畳台やソファを置いている。	広々とした廊下の壁には、今年度事業所で行った行事やお祭りなどのイベントの写真やペットボトルで作った作品、『祝15周年』という文字を四千羽の折り鶴を使い表現されるなど、利用者と職員が取組んだ証を感じられる雰囲気づくりを演出している。また、家族会で花の苗を植えたプランターや畑が窓越しに見え、季節を感じられる環境となっている。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間が広く、窓から庭の景色を眺める方やソファで新聞を見たりおしゃべりする方等、マイペースに過ごせている。		
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家から使い慣れた物を持参され、自宅に近い環境作りに努めている。家族の写真を飾り、本人が安心して居心地良く過ごせるように配慮している。	居室にも担当職員が作った行事の写真やアルバム、家で使っていた化粧台やタンスなど馴染みの品々を持ち込まれ、利用者が居心地よく過ごせるような環境整備が行われている。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	介護用品を使用して自立に向けた支援を行っている。施設内は段差も無く、安全に過ごせるように配慮している。		